

第4回 暮らしの中の薬草学  
身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会 狩俣 イソ

クミスクチン

学名 *Orthosiphon aristatus* Miq.  
科名 シソ科  
属名 オルトシホン属  
使用部位 葉・茎  
有効成分 ロズマリン酸・カリウム  
オルソシオニン



白～淡紫色の花が総状花序になります

クミスクチンの特徴

インド・マレーシア原産の低木状多年生草で高さ1m以上になる。全草細かい伏毛に覆われているが、無毛状に見える。茎は四角で赤紫色を帯び、葉は柄があり卵形の楕円形で先がとがり、縁に浅い切れ込みがある。白～淡紫色の花が総状花序になり、おしべが突き

出てちょうど猫のヒゲのようで、インドネシア語でkumis [髭]、kuting [猫]【クミスクチン】、和名はねこのひげ、漢名は猫鬚草、英名 Cat's whiskers 現地語の英訳で呼ばれている。基本的な開花時期は6月～11月である。

大変強い草で、10cmくらいの枝をさせば活着する。適期は6月～9月、伸びたら何回でも切ってつかえる。

クミスクチンの歴史

100年以上前からヨーロッパの各地で広く栽培され、現在でもドイツやフランス、オランダなどで利尿薬の医薬品原料として盛んに利用されている。健康茶として4～6葉を有する新芽を乾燥させ煎じて飲用されている。

日本統治時代の台湾で試験的に栽培され、1930年代玉木政吉氏によって沖縄の西表島で栽培繁殖を企てられたが戦争のため中断。戦後玉木氏の残した株とさらに別のルートで持ち込まれた株が繁殖して一般家庭にまで流布するようになった。1964年薬効に注目しインドネシアから沖縄に株を持ち込み、薬草茶として栽培された。1975年の沖縄海洋博の報道の中で取り上げられたことが全国に広まるきっかけになった。

エネルギー	蛋白質	炭水化物	脂質	ナトリウム	マグネシウム
0 kcal	0.1 g	0.1 g	0.1 g	0.5 mg	0.8 mg
亜鉛	カリウム	カルシウム	タンニン	ロズマリン酸	リン
6 μg	10.9 mg	1.8 mg	0.01 mg	1.6 mg	76 μg

検体5gを水600mlに浸し沸騰させ、5分間煮出した後ろ過した液について試験した。

財団法人日本食品分析センター

## 花粉症

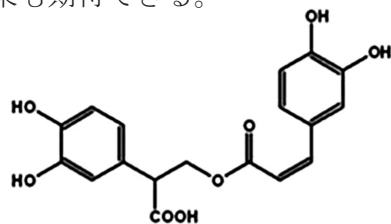
クミスクチンが、花粉症などアレルギー症状の緩和に効果があるとされている。クミスクチンに含まれるロズマリン酸は、過剰になっている免疫反応を正常に戻し、ステロイド剤にかわる副作用のないアレルギー軽減物質として期待されている。強い抗アレルギー作用、ヒスタミンの過剰な分泌を抑える働きや抗炎症作用があるので、花粉症やアトピー性皮膚炎、掌腫膿包症、関節炎などの症状を改善する効果も期待されている。

京都府立医科大学医学部でロズマリン酸、ポリフェノール成分フィトケミカルゲノミクス、濃縮赤紫蘇のエキスで人間の季節性アレルギー鼻炎を抑制することが研究され、アレルギー免疫グロブリンの応答とマウスにおける多形核白血球によって引き起こされる炎症を抑制すること、そして安全性にも問題がないことを確認した。この代替治療は、アレルギー疾患の治療費を削減できるのではないかと期待されている。

## 血糖上昇抑制作用

クミスクチンが含むロズマリン酸は糖と脂肪の消化・吸収を押さえる作用や、血液中の中性脂肪を調節する作用がある。

血糖値を上昇させる原因のひとつ、摂取された炭水化物が、小腸で酵素の働きにより麦芽糖、ブドウ糖へと分解され、エネルギーとして使われないブドウ糖が中性脂肪へと変化し、さらに麦芽糖がブドウ糖に分解されて身体に蓄えられる。ロズマリン酸は体内に取り込まれた麦芽糖を分解する酵素マルターゼの働きを阻止して麦芽糖をブドウ糖に分解させず、そのまま排出させ血糖の上昇を抑える働きがある。さらに糖を脂肪に変えにくくし食べた炭水化物への即効性があることから、ダイエット効果も期待できる。



■ロズマリン酸の化学構造

## アルツハイマーの予防・治療

脳の沈着アミロイドβタンパク質はアルツハイマー病の普遍の特徴であり、ミリセチン、ロズマリン酸、クルクミンなどのフェノール化合物の抗アミロイドβ凝集効果が報告されている。

現在金沢大学大学院（山田正仁教授）で、①アルツハイマー病患者における、ロズマリン酸の安全性と有効性に関する検討：二重盲検プラセボ試験、②アルツハイマー病患者におけるロズマリン酸の長期間服用の安全性および忍容性を明らかにする臨床試験が行われている。

## 利尿作用・腎臓病予防

クミスクチンは100年以上前から利尿作用が顕著なことで知られ、ヨーロッパを中心に長年に渡って研究されてきたが、多くの利尿薬にあるような腎臓や心臓への負担は報告されていない。クミスクチンに豊富に含まれるカリウムは血液や体液の水分貯水量を引き下げ、利尿作用によるむくみをとるなどの作用がある。血液や体液中の余分な窒素や塩分、老廃物などを尿とともに対外に排出する効果もあり、さまざまな腎臓疾患の改善に効果がある。

## 美容効果

皮膚の潤いやハリを保つ物質としてヒアルロン酸があり、一方でこれらの物質を分解するヒアルロニターゼが存在し、クミスクチンはヒアルロニターゼを阻害し、ヒアルロン酸の分解を抑制することが確認された。

## 抗酸化作用

酸化力が非常に強いスーパーオキシドアニオンラジカルの消去活性をクミスクチンで確認した結果、クミスクチンに強い消去活性が確認された。

## 血圧上昇抑制

高血圧自然発症モデルラットを使用し、血圧上昇抑制作用の検討を行った結果、コントロール群に対してクミスクチン群に血圧の上昇を有意に抑制することが確認された。

参考文献 沖縄発酵化学 データー  
京都府立医科大学 資料  
ハーブティ薬草データベース  
金沢大学大学院脳老化・神経病態学資料